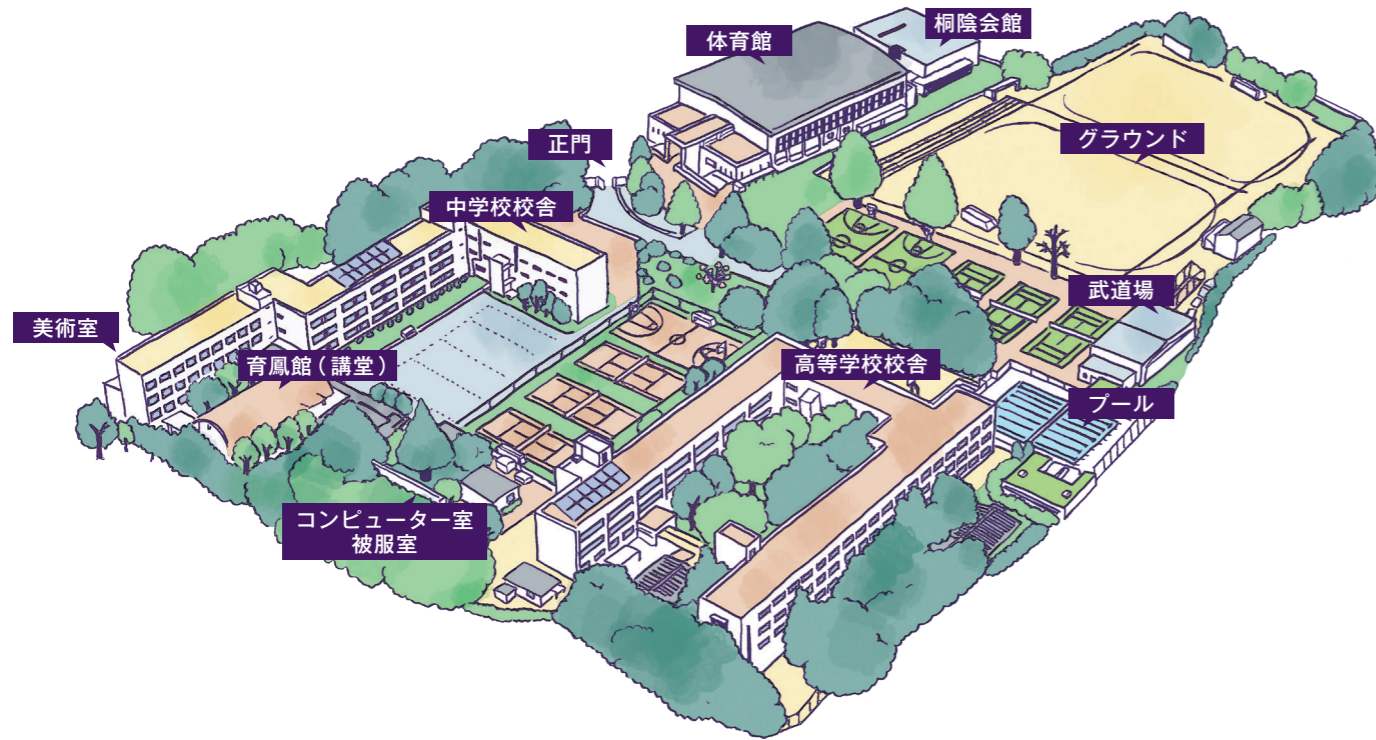


筑波大学附属中学校

CAMPUS MAP



ACCESS



筑波大学附属中学校

GUIDE BOOK

〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-1
TEL: 03-3945-3231 FAX: 03-3945-3886



<http://www.high-s.tsukuba.ac.jp/jhs/>



Junior High School at Otsuka,
University of Tsukuba
GUIDE BOOK





INTRODUCTION

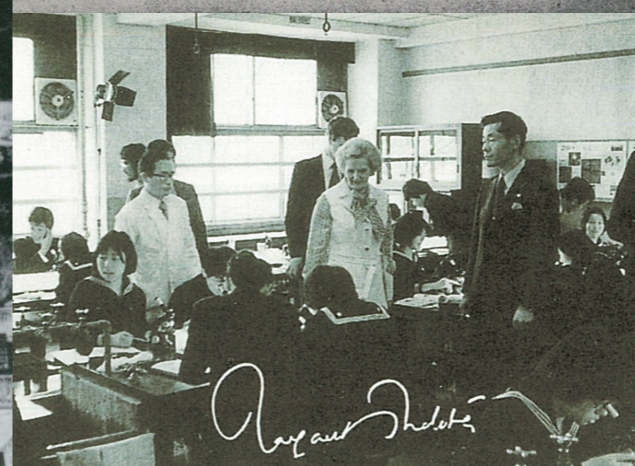
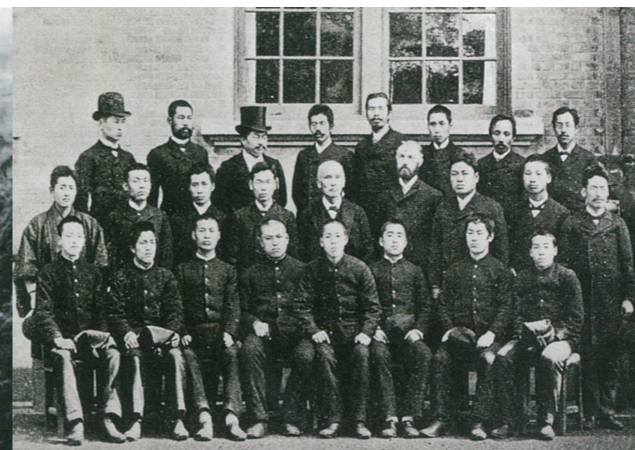
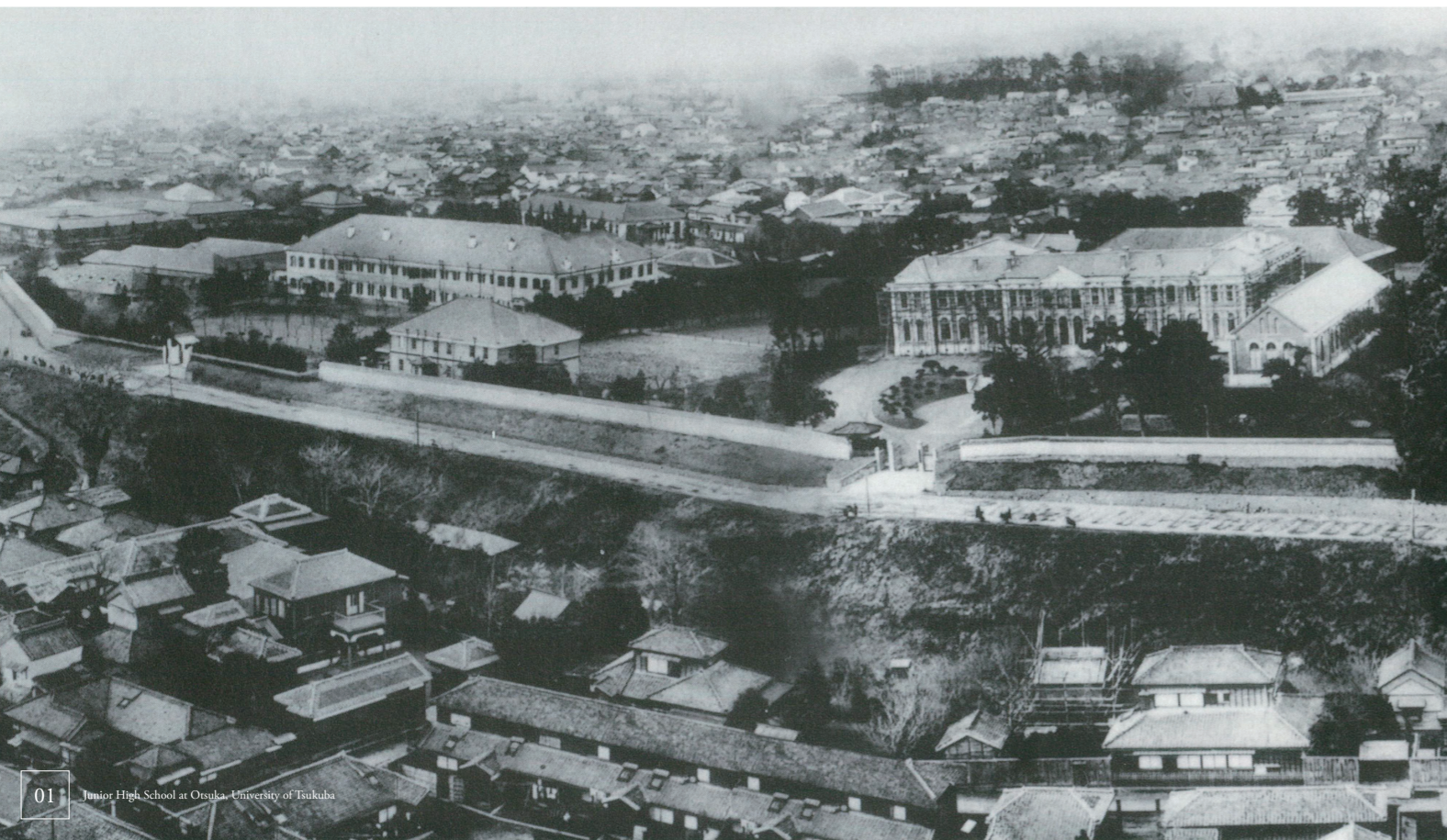
本当の学びがここにある

INTRODUCTION

中学生は心身ともに大きく変化する年頃です。その3年間を過ごす附属中学校には、成長期の渦の中にある生徒達を、
鍛え、育てる場が、あちこちに用意されています。

授業の中では、「考え方」や「すじみち」を掘り下げていく場面、多様な意見にふれる機会や、自分の考えをふり返る時間、
互いに聞き合う中で1つものを創りあげていく体験など、将来につながる活動が数多くあります。

授業以外の活躍の場も多彩です。その大半は自治の理念で進められ、生徒には多くの自由と権限と責任の伴う環境が与えられ、
仲間と協力しながら役割をやり遂げながら育っています。



SCHOOL MOTTO

| 校訓 |

強く
正しく
朗らかに

| 教育目標 |

調和的な心身の発達と確かな知性の育成、
ならびに豊かな個性の伸長を図るとともに、
民主的社會の一員として人生を主体的に
開拓し、すすんでは、人類社會の進展に
寄与することができる人間を育成する。

| 育てたい資質 |

自主自律の精神
強い意志とたくましい実践力
積極的な創意と探究心
広い視野に立つ正しい判断力
明朗率直な態度
集団生活における協力と責任
人間愛にもとづく思いやりの心

本校の特色

広く緑の多い環境の中で、筑波大学と連携しながら、3つの教育拠点構想（先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点）に基づいて、教育活動を行っています。

すべての教科領域、 活動領域を重視した教育

本校では教育課程を教科領域と活動領域に分けています。教科領域は、人類が創造し、継承、発展させてきた文化を系統的に学習する教科学習と、文化を活動的・総合的・実践的に学習する総合的学習から構成されています。活動領域は、活動や実践を通して人格の形成をめざす領域で、HR活動と実践的活動とから構成されています。



筑波大学や附属11校間の 密な連携教育

筑波大学の附属学校は11校あります。普通附属学校6校（小中高）と、特別支援学校5校（視覚、聴覚、肢体不自由、知的障害、知的障害を併せ有する自閉症）とがあり、双方の連携を深め、教育活動が充実することを目指しています。毎年、幼児児童生徒の交流会及び希望者による宿泊を伴う共同体験学習（三浦海浜生活）や、教員の相互交流の推進等に取り組み、大きな成果をあげています。



多くの国際交流

海外からの見学者との交流、シンガポール提携校の生徒との交流会、ネイティブの先生による英語での指導、海外研修に行った先生による授業等、異なる感性や価値観にふれる機会が多くあります。春休みのアメリカ短期留学では、現地校での学びとホームステイを通して、生徒はたくさんの刺激を受けます。



ホームルームアワー (HRH)

特別活動と道徳を融合したホームルームアワー(HRH)という授業を1974年から行っています。道徳的な心を教科書等の読み物だけではなく、活動をととして身に付けることを目指した大切な時間です。しかも、学級だけでなく、学年や学校全体でも活動できるように時間割が組まれています。



TSUKUBA

の学びについて

すべての教科領域、活動領域を大切にしています。教科の学習はもちろん、学級や学年の活動、生徒会活動、部・研究会活動などの自治活動も重視しています。これらの様々な活動を通して、基礎・基本を鍛え、一人ひとりの「個性」を育みます。

男子と女子の人数はほぼ同数の共学です。中学から附属の仲間入りをする生徒と、附属小学校出身の生徒が一緒になって、互いによいところを出し合い、楽しく学び、関連に活動しています。

附属中学校は、生徒が学ぶ場であるとともに、教師も頻りに研修・研究会を行っています。内地留学の教員の受け入れや、諸外国からの視察も多く、教師教育の拠点校になっています。



嘉納治五郎

嘉納治五郎先生は、講道館柔道の創設やアジア初の国際オリンピック委員会 (IOC) 委員として有名ですが、筑波大学の前身である高等師範学校・東京高等師範学校の校長を3期23年半にわたって務めたほか、本校の前身である東京高等師範学校附属中学校の校長も3期24年半務めた方でもあります。附属中学校に、現在の富浦海浜生活につながる課外活動を導入したり中国などからの留学生を受け入れたりするなど、当時においては画期的な様々な教育改革を行い、それらは日本の学校教育の充実と国際的な視野を持ったリーダーの育成につながりました。嘉納先生の精神は、今でも本校の教育のあり方の指針となっています。

MESSAGE

校長メッセージ

筑波大学附属中学校は、創立130年を超える長い歴史と伝統を誇る学校で、本来あるべき人間の姿を追求し実践できる生徒の育成を目指しています。そのために本校は、中学校期の教育の意義とその重要性を強く認識して、授業研究や指導力の研鑽努力を積み重ね、日頃の各教科の授業に力を注いでいます。また、運動会や宿泊を伴う海や山での共同生活などの行事を重視するとともに、道徳と特別活動を発展的に融合させたホームルームアワー(HRH)などの独自のカリキュラムを組んでいます。

本校ではとくに自主自律の精神や生徒の自治を大切にしています。生徒自ら判断し考える力を育成するよう授業内容が工夫され、各行事においても生徒同士で多くのことを決定し運営する自治が実践されています。中学校生活の中で、ときには困難や壁を感じることもあるかもしれませんが、そのような時、自治の実践を通して身につけた力を活用し、

一つ一つの目標を達成してほしいと思います。同時に人への心配りを忘れず周囲と協調し仲間を大切に、体、徳、知の調和のとれた人として成長してほしいと思います。

幸い本校は文京区の落ち着いた学習環境にあります。また本校は先導的な教育拠点として教育を実践する教師が生徒を指導します。恵まれた環境で、一人一人の可能性と能力を伸ばし、社会の進展に力を発揮できる人間になることを願っています。



筑波大学附属中学校
校長

水上 勝義

日々の学び

一日の生活の始まりは、全校週番が集まり、何を伝えるか、どのような伝え方をしたらよいか考えるところから始まります。自分達で考え、行動する「自治」を大切にしています。

自治活動

自治活動は、本校を語るうえで欠かせないものです。先生たちの力に頼るだけではなく、自分たちの目で見、頭で考え、体を動かし、自分たちの力で自分たちを「治める」。この自治活動のありかたと意味を、本校の生徒は3年間考え続けます。仲間とともに自治活動について考え続けた日々、自信と誇りを持って生徒は巣立っていきます。



学校・学年行事

本校にはたくさんの行事があります。学校行事では、半年以上をかけて作り上げる「運動会」と「学芸発表会」がその代表です。また、コース別の「修学旅行」や「校外学習」は、教科学習を深化させる重要な行事です。学年行事では、「富浦海浜生活」(1年)や「黒姫高原生活」(2年)などのほか、校外活動などもあります。どの行事でも生徒が主体的に活動し、企画・運営力、主体性、合意形成などのグローバル社会に生きるための素養を磨くことができます。



部・研究会活動

部活動は、生徒一人ひとりの自主性と主体性から成り立っています。自分の興味関心のある運動部や研究会に参加し、仲間と高め合い中学校生活の中で充実した時間になっています。たくさんの部活動、研究会があるのでそれらの活動を通して輝いている自分に出会えるはず。仲間と共に過ごす3年間はかけがえない充実した日々になることでしょう。



修学旅行

本校の修学旅行は前身の東京師範学校が1886年に「長途遠足」として実施したことから始まり、日本の修学旅行の発祥と言われています。現在は、文学、社会、自然、勤労体験などの5つのコースから1つを選択し、現地で生活する人々や文化財と出会い、宿泊を伴う体験的・総合的な活動を行っています。活動を深めるための事前学習や現地での学びを振り返り、まとめる事後学習も行います。



アメリカ短期留学

春休みにアメリカ短期留学を実施しています。本校生徒のためだけに用意されたプログラムであり、希望者36名がペンシルベニア州にある現地の学校、ホストファミリーにお世話になり、英語漬けの生活を送ります。この約10日間での生徒の成長は目を見張るものがあります。

▶ STUDENT'S OPINION

附属中学校には希望者で行く、「アメリカ短期留学制度」がある。現地でホームステイを行い、日本では体験できない生活を肌で感じる事が出来たり、英語力やコミュニケーション能力を身につけたりすることができる。日本に留まらず海外に目を向け、

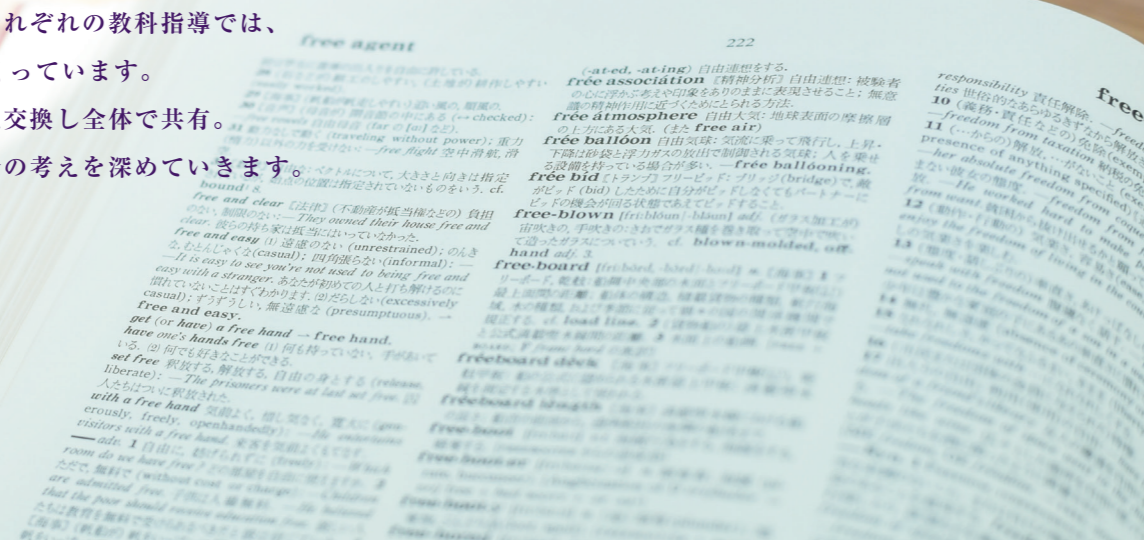
私にとって国際感覚を身につけるよい機会になった。この刺激的な経験によって得た広い視野で、「自分自身を見つめ直す」そんな貴重な10日間である。

3年 参加者男子



教科教育

自ら学ぶ意欲を大切に、それぞれの教科指導では、
わくわくする学びの場をつくっています。
自分で考え、グループで意見交換し全体で共有。
そしてそこから、新たに自分の考えを深めていきます。



英語

ENGLISH

本校では、100年以上前から英語で授業を行い、「聞くこと」「話すこと」を中心とした指導を行ってきました。現在も、これからのグローバル社会に生きる人に必要なコミュニケーション能力を育成するよう心がけています。実際に多くの卒業生から「附属中で習った英語が社会に出てから役に立っています」という声がとどいています。



数学

MATHEMATICS

数学科の授業は教科書を基本として展開しますが、教科書通りに進行するわけではありません。生徒どうして意見を交換し合いながら、概念を確認したり、解決のための方法を話し合ったりします。お互いに議論し学び合う過程を通じて、数学の内容を深く掘り下げながら学習が進むという特徴があります。



国語

JAPANESE

国語科では、話す・聞く、読む、書くという各領域の力をバランスよく育み、発展させるため、教科書での基礎・基本の学習のほかに、充実した漢字・語彙力の育成、国文法の指導、百人一首の暗唱、『竹取物語』や『論語』の副読本を用いた指導、作文コンクールへの投稿などを行っています。



社会

SOCIAL STUDIES

社会科の特色は、「疑問の発見と追究をめざす」授業です。社会科の行事として、さいたま市岩槻区などを訪問し、人形づくりの体験や農業体験を行います(中1)。修学旅行の社会コースでは、静岡県川根本町にある茶農家を訪問して茶摘み体験をしたり、地域の学校との交流を行ったりします(中3)。



理科

SCIENCE

理科の学習は、できるだけ生徒自身が課題や問題を自らの手で解決していくことを重視し、与えられた方法に従った学習ばかりでなく、自らが「学ぶ」「学びとる」という姿勢を尊重して行っています。学習内容は教科書を基本とし、実験や観察、生徒の日常生活とのつながりを十分に考慮したものを数多く取り入れています。



美術

FINE ARTS

「表現」では、基礎・基本を大切にしつつ、さまざまな素材との関わりを通して試行錯誤し自分のやり方で創造的に生み出すこと、「鑑賞」では、仲間との意見交換を多く取り入れ、造形的な見方・考え方を広げることを目指しています。ひいては周囲の環境や人それぞれのよさに気づく力の育成につなげたいと考えています。



技術・家庭

TECHNOLOGY・HOME ECONOMICS

生徒を取り巻く環境の変化により、自ら試し、工夫する機会も不足しています。そこで、本校の技術・家庭科では、実践的・体験的な学習活動を重視しています。社会や生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、成就感や自己効力感を育むことで、これからの社会や家庭生活をよりよく豊かに創造していこうとする能力や態度を育みます。



音楽

MUSIC

単なる演奏技術の向上や、他との比較、勝敗を競う手段として音楽を捉えない文化的な雰囲気の中、「心の耳を育てよう」「判断力をつける」「壁を乗り越える」「安心して失敗できる音楽室にしよう」の4つの学びの柱に基づいて、生徒たち自身が自分の取り組みのなかで自らの状況を分析し、学習を構築していけるよう指導しています。



保健体育

HEALTH AND PHYSICAL EDUCATION

保健体育科では、運動やスポーツ、健康などの文化を継承・発展し、生涯を通じて豊かなスポーツライフを形成できるよう、運動やスポーツの技術を学び、その能力を高め、運動に関する知識や態度を身につけるとともに、健康な生活を維持管理するための知識や態度を身につけることを目標としています。



総合学習

INTEGRATED STUDIES

総合学習には、半世紀の歴史があります。教科の学習では扱えないような問題を、自ら追究・解決し、そのプロセスで身につけた力を日常生活の中でも生かせるようにする学習です。1年生の探究学習と情報リテラシー学習、2・3年生のコース別学習が本校の「総合学習」。校外学習、合唱発表会、修学旅行の3つを「行事的学習」、それらを合わせ、教育課程上では「総合的学習」と呼んでいます。



年間行事

生徒自身が作りあげる行事。
それが、本校の行事の特色です。
仲間とともに考え、助けあった経験は、
大切な心の財産になります。

- | | | |
|---|--|---|
| 4月
April
<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 ・始業式 ・総合健康診断 ・育鳳会、向上会総会 (PTA総会) | 5月
May
<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行(3年) ・校外活動(1、2年) ・教育実習期間 ・校外学習(1年:社会科) | 6月
June
<ul style="list-style-type: none"> ・前期中間考査 |
| 7月
July
<ul style="list-style-type: none"> ・黒姫高原生活(2年) ・富浦海浜生活(1年) ・夏休み | 8月
August
<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み | 9月
September
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習期間 ・開校記念日 ・運動会 ・前期末考査 |
| 10月
October
<ul style="list-style-type: none"> ・開学記念日 ・前期終業式 ・秋休み ・後期始業式 | 11月
November
<ul style="list-style-type: none"> ・学芸発表会 ・委員長陣 (生徒会)選挙 ・研究協議会 ・後期中間考査 | 12月
December
<ul style="list-style-type: none"> ・合唱発表会 ・生徒会総括 ・冬休み |
| 1月
January
<ul style="list-style-type: none"> ・冬休み ・委員長陣所信表明 ・生徒会団体基本方針 | 2月
February
<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・学年末考査 | 3月
March
<ul style="list-style-type: none"> ・ファイナルコース (3年) ・卒業式 ・修業式 ・春休み |

▶ STUDENT'S OPINION

附属中学校には富浦生活や黒姫生活等多くの行事があり、その多くが生徒の手によって創り上げられている。自分たちがどのようなものにしていくか考え、充実したものにするために、仲間と力を合わせて創っていく。これが附属中の大きな特徴である。

桐陰会委員長



部・研究会活動

(運動部)

(文化部)

共通の興味・関心によって構成される学年を超えた
集団での活動を通じて、社会性を養い、
尊敬と思いやりの相互理解に基づく豊かな人間関係を
育みます。

部 (運動部)

男子水泳部/女子水泳部/蹴球部/男子硬式庭球部/
女子硬式庭球部/排球部/野球部/陸上競技部/男子
籠球部/女子籠球部/ダンス部/剣道部/
バドミントン部/卓球部

▶ STUDENT'S OPINION

本校の運動部は、15の部があります。筑波の自治の1つとも言える部活動では、生徒が中心となり活動しています。1年生から3年生まで互いに協力し合い、勉強と両立しながら日々練習に取り組んでいます。

3年 陸上競技部主将



研究会 (文化部)

音楽研究会/化学研究会/電子情報技術研究会/美術研究会/イラスト研究会/天文研究会/鉄道研究会/演劇研究会/アジアの子供の会/家庭科研究会/文芸同好会/軽音楽同好会/競技かるた同好会/囲碁将棋同好会

▶ STUDENT'S OPINION

本校の研究会は、個性豊かなものが多いのが特徴です。個人の趣味や好きなことを最大限に活かし、皆で楽しく活動しています。研究会ごとに目指す目標は違いますが、どの研究会もその目標に向かってこれからも一生懸命に努力していきます。

3年 音楽研究会責任者